

2019年10月ドミニカ共和国内政、外交、経済定期報告

2019年11月20日
在ドミニカ共和国日本大使館

1 内政

(1) 2日～3日付当地「オイ」紙は6日に実施される大統領予備選に係る「Mark Penn」社の下記の調査結果を掲載。

ア 与党ドミニカ解放党 (PLD) の次期大統領候補者には誰になるべきか。

フェルナンデス前大統領：46%

カスティージョ前公共事業通信大臣：46%

イ 全有権者が投票権を有する与党PLDの予備選の投票に行くか。

投票に行く：62%

投票に行かない：33%

ウ 野党現代革命党 (PRM) の次期大統領候補者には誰になるべきか。

アビナデル前大統領候補：79%

メヒーア元大統領：18%

エ どの政党を支持しているか。

無党派：49%

与党PLD：28%

野党PRM：18%

オ 下記の政治家を支持するか。

カスティージョ前公共事業通信大臣：支持する (47%) , 支持しない (42%)

フェルナンデス前大統領：支持する (45%) , 支持しない (53%)

アビナデル前大統領候補：支持する (57%) , 支持しない (38%)

メヒーア元大統領：支持する (35%) , 支持しない (62%)

(2) 6日, PLD及びPRMのそれぞれの2020年大統領候補他を決める予備選が実施され, 与党PLDの大統領候補としてカスティージョ前公共事業通信大臣が, 野党PRMの大統領候補としてアビナデル前大統領候補が勝利宣言を行った。

(3) 8日, フェルナンデス前大統領選挙チームは, 6日の与党ドミニカ解放党 (PLD) 大統領予備選において不正が行われたとして中央選挙委員会 (JCE) に対し選挙の無効要請を求める11項目に上る請求書を提出。右に対して9日, JCEは手動による投票証拠書類の再集計の実施を発表。

(4) 10日, 中央選挙委員会 (JCE) は, 6日の与党ドミニカ解放党 (PLD) 大統領予備選に関し手動による再集計結果を公表した。右を以て, JCEは (大統領) 予備選挙の最終結果を以下のとおり発表。

ア 与党PLD

(ア) ゴンサロ・カスティージョ前公共事業通信大臣：91万1,324票（手動による再集計で電子投票結果よりも599票減）

(イ) レオネル・フェルナンデス前大統領：88万4,630票（手動による再集計で電子投票結果よりも603票減）

(ウ) メラニオ・パレデス元教育大臣：1万2,751票

(エ) マリツァ・エルナンデス元労働大臣：1万1,973票

(オ) マヌエル・クレスポ元青年大臣：1万335票

(カ) 該当者なし：3万9,539票

イ 野党PRM

(ア) ルイス・アビナデルPRM前大統領候補：28万3,393票

(イ) イポリト・メヒーア元大統領：8万951票

(ウ) ウェリントン・アルナウド下院議員：6,415票

(エ) ラモン・ブルゴス・ディアスPRM政治委員：2,820票

(オ) ホセ・ラファエル・ブエノFALCONDO社労働組合代表：1,879票

(カ) ラモン・エミリオ・コンセプション弁護士：1,519票

(キ) 該当者なし：5,408票

(5) 20日、フェルナンデス前大統領は、与党ドミニカ解放党（PLD）からの離党及び新たな政治組織であるLa Fuerza del Pueblo（LFP：国民勢力党）結成に向けたプロジェクトの立ち上げを表明。

(6) 27日、2020年大統領選挙に向けた各党候補者の中央選挙委員会（JCE）への申請期間が終了し、合計7名が立候補を申請した。なお、先般の与党PLD予備選で敗れ同党から離党したフェルナンデス前大統領が他党の候補者として立候補を申請したが、右は政党法や選挙法に抵触するとされ、翌年3月の大統領候補者正式登録期限までにJCEが同申請を棄却する可能性についても指摘されている。申請を行った候補者7名は以下のとおり。

ア ゴンサロ・カスティージョPLD（ドミニカ解放党）候補

同盟政党：PRD（ドミニカ革命党）、MODA（代替民主運動）、PCR（市民革新党）、PDP（国民民主党）、UDC（キリスト教民主連合）、PAL（自由行動党）

イ ルイス・アビナデルPRM（現代革命党）候補

同盟政党：PHD（ドミニカ人道党）、DXC（ドミニカ変革党）、APD（民主同盟党）、FA（拡大前線）、PRSD（民主的社会改革党）

ウ レオネル・フェルナンデスPTD（ドミニカ労働者党）候補

同盟政党：PRSC（キリスト教社会改革党：野党第二党）、PQDC（キリスト教民主キスケージャ党）、BIS（民主的社会制度連合）、FNP（全国革新勢力党）、PUN（国家統一党）

エ ギジェルモ・モレーノALPAIS（国家同盟党）候補

オ ラムフィス・ドミンゲス・トゥルヒージョPNVC（市民意志国家党）候補

(同候補者はトゥルヒージョ元大統領の孫)

カ イスマエル・レジェスPDI (制度的民主党) 候補

キ ポルフィリオ・ロペス・ニエトPASOVE (緑の社会主義党)

(7) 28日, メディーナ大統領出席の下でPLD中央委員会が開催され, これまで同党の党首を務めてきたフェルナンデス元大統領に代わり, モンタス前商工大臣が与党PLDの暫定党首として承認された。なお, フェルナンデス前大統領夫人のセデーニョ副大統領は同委員会を欠席した。

2 外交

(1) 2日付当地「ディアリオ・リブレ」紙電子版及び9日付当地「オイ」紙は, 千葉県松戸市の協力により当国中部コンスタンサ市にて進められてきた梨プロジェクトにおいて初収穫が行われた旨報道。

(2) 2日, 国際民間航空機関(ICA0)総会において理事国選出選挙が実施され, ドミニカ(共)が引き続き理事国に選出された。

(3) 3日, バルガス外相は, ドミニカ(共)の要請に基づき実施されたハイチ政治経済危機に関する国連安保理会合に出席。「バ」外相は, 「会合は, ハイチ国内における暴力と行政組織の不安定性の解決に向けた合意に直結する支援を模索するために開催されることとなった」と述べた。また, 「バ」外相は, 「我々は民主的に選出されたモイーズ・ハイチ大統領を支持し, 国際社会の責任とハイチを支援する重要性につき呼びかけた」と述べる一方, 現下のハイチ情勢がドミニカ(共)にネガティブな影響を与えており, 国境地域の治安を強化せざるを得ない他, 国境二国間市場の活動も顕著に低下しているとの見方を示した。

(4) 4日, バルガス外相は韓国の開天節に際し, 当国外務省においてスピーチを実施し, 1962年6月6日の国交樹立以降の韓国の協力を強調。

(5) 15日, 当国外務省にて第一回メソアメリカフォーラムが開催され, メソアメリカ地域の能力強化, 発展及び統合に関する協議が行われた。ベリーズ, コロンビア, コスタリカ, エルサルバドル, グアテマラ, ホンジュラス, メキシコ, ニカラグア, パナマ及びドミニカ(共)の代表者が出席。

(6) 16日, バルガス外相はベン当地英国大臨時代理大使と会談し, 英国とカリブ海フォーラム諸国の間で締結されている経済連携協定(EPA)における関税特恵を保証する旨の覚書に署名。

(7) 16日, Jiang Zuojun中国致公党中央委員会副委員長が当国を訪問し, カマーチョ下院議長らと会談を実施。

(8) 17日, バルガス外相はカマ・ニアムユーア駐キューバ・コンゴ民主共和国大使と会談を行い, 二国間の国交樹立に合意。

(9) 18日, 米國務省領事局は, 去る5月末に, 当国東部のホテルにて米国人が不審死

した事件に関して、自然死であった旨の調査報告結果を発表した。

(10) 29日、メディーナ大統領は大統領府にてシンシア・キエシツ米国務省国務副次官補の表敬訪問を受け、会談を行った。バルガス外相、モンタルボ大統領府大臣、バーンスタイン当地米国大使他が同席。

3 経済

(1) 3日付「エル・ディア」紙は、日本のビットコイン取り扱い企業「Bit Point Latam」社が当地にて事業を開始する旨報道。

(2) 4日、露Azur Air社がカザン及びエカテリンプルクと当国のラ・ロマーナを結ぶ直行便二便の運行を新たに開始。

(3) 6日、ドミニカ輸出投資庁(CEI-RD)は、ドミニカ(共)産農産品の対中輸出の輸出合計額が近く年間あたり3億5,700万ドルに上る可能性があるとの試算を発表した。

(4) 11日、メディーナ大統領は、プンタカタリーナ石炭火力発電所の第二基の稼働開始式に出席。同基の試運転を開始すると発表し、本年12月末に正式稼働するよう期すると述べた。

(5) 23日、メディーナ大統領は、大統領府にて当国北西部のマンサニージョ港の投資・開発に関心を有する米国投資家グループと会談を実施した。

(6) 23日、メディーナ大統領は、大統領府にて当地国営のタバコ・葉巻企業「ラ・タバカレーラ」社の50%の株式を保有するJTI(Japan Tobacco International)幹部と会談を実施した。

(別添1) 経済指標

(了)